

広島大学短期交換留学 (HUSA) プログラム 派遣留学報告書

	記入日 平成 28 年 8 月 4 日			
所属学部・研究科	経済学部 3 年次 (留学開始時点)			
留学先大学	インドネシア大学 (国名: インドネシア)			
所属学部・学科等名	経済学部			
在籍身分	交換留学生			
留学期間	平成 27 年 8 月 20 日 ~ 平成 28 年 6 月 10 日			
1. 渡航について				
ビザについて	ビザの種類: 社会文化ビザ → 学生ビザ			
	ビザ申請先: 在大阪インドネシア領事館			
	取得方法, 提出書類: ビザ取得に必要な書類 (インドネシア大使館ホームページ参照) を在東京インドネシア大使館又は在大阪インドネシア領事館に提出しビザ申請を行う。			
	手続きに要した日数: 4か月			
その他必要な事前手続き				
出国年月日	平成 27 年 8 月 15 日			
経路	福岡空港 → チャンギ空港 (シンガポール) → スカルノハッタ空港 (インドネシア)			
現地での出迎え	有・大学関係者			
到着後オリエンテーションの実施状況・期間・内容	到着一週間後にオリエンテーションが行われた。学生情報の入力や授業の履修登録などを行った。			
帰国年月日	平成 28 年 6 月 28 日			
経路	スカルノハッタ空港 → 羽田空港 → 福岡空港			
2. 留学経費について				
所要経費	総額	103 万	円	
	内訳	渡航費	17 万	円
		保険料	10 万	円
		教科書代(学費)	1 万	円
		宿舍費	30 万	円
		食費	30 万	円
		その他 (旅費) (生活に必要な物) (費)	10 万 5 万	円 円 円
3. 授業について				
H27 年 1 学期	9 月 1 日 ~ 12 月 20 日			

H28 年 2 学期	2 月 10 日 ~ 6 月 10 日		
年 学期	月 日 ~	月 日	
年 学期	月 日 ~	月 日	
授業の概要について (カリキュラム, プログラム等)	所属学部の英語で開講されている授業を履修した。授業は現地学生と一緒に受ける。		
単位互換希望の有無	<input type="checkbox"/> 無 ※有の場合, 所属学部支援室へ提出の単位認定申請書類のコピーを添付すること		
学術面に関する後輩へのアドバイス	宿題が頻繁に出されると思うので, しっかりと取り組みましょう。		
4. 生活等について			
(1) 留学先の住居について			
住居の種類	アパート		
住居の広さ	8 帖	同居人の有無	無
住居に附属する設備	<input type="checkbox"/> 電気 <input type="checkbox"/> ガス <input type="checkbox"/> 水道 <input type="checkbox"/> シャワー <input type="checkbox"/> 水洗便所 <input type="checkbox"/> 暖房 <input type="checkbox"/> 冷房 <input type="checkbox"/> 台所 <input type="checkbox"/> インターネット)		
住居費	1ヶ月当たり	(現地通貨)	約 30000 円
住居を決定した方法	<input type="checkbox"/> 留学先大学の紹介		
留学先での住居全般に関するアドバイス	時々, 停電が起きるので気を付けてください。		
(2) 医療について			
1 日以上入院を要する 病気・怪我等を	<input type="checkbox"/> した		
入院した場合	細菌性下痢 により 1 日入院		
留学に当たり保険を	<input type="checkbox"/> 掛けた		
掛けた場合	<input type="checkbox"/> 日本		
掛け金は	年間 100000 円 補償額 死亡 円, 入院 1 日 円 その他 ()		
留学前後での予防接種の必要の有無	<input type="checkbox"/> 有		
有の場合, その種類, 回数, 費用, 受けた医療機関名	B 型肝炎予防 費用: 約 5000 円		
日常的な健康について不安が	<input type="checkbox"/> あった あった場合その理由: 発展途上国であったため		
留学先国の医療事情 (日本と比較して)	ジャカルタに日系病院があるので, 日本人留学生はよく利用していました。		

留学先での健康管理, 衛生面について特に注意すべきこと	飲み水はお店で買きましょう。	
(3) 危険を感じた地域, 状況		
1月にテロがインドネシアの首都で起こった。		
(4) その他生活等に関して参考となる事項		
所持物を置いて、どこかへ行くことは危険です。		
5. 帰国後の進路について		
卒業予定年月	平成 29 年 3 月 (当初の卒業予定年月 平成 29 年 3 月)	
卒業が遅れる見込みの場合, その理由	<input type="checkbox"/> 4年次に留学したため <input type="checkbox"/> 単位不足のため <input type="checkbox"/> 新卒で卒業するため <input type="checkbox"/> その他 (具体的に)	
現在の状況および今後の予定・進路等	4年次で卒業予定。	
就職活動や留学前の単位取得, 教育実習等についての工夫	単位に関しては、留学前にゼミの単位以外は取得済み。就職活動は行ってません。	
6. 留学準備, 留学中に役立った書籍, ウェブサイト等		
書籍, サイト名	詳細 (出版社, URL 等)	コメント
7. 自由記述 (後輩へのアドバイス等)		
東南アジアへの留学は欧米留学とはまた違った醍醐味があります。是非興味ある方は東南アジア留学も考えてみてください。		

学習の概要に関するレポート

まずは授業に関してですが、授業は英語かインドネシア語で行われています。僕の場合は英語で行われる授業を履修しました。インドネシア語で行われる授業を履修したい場合は、インドネシア語が問題なく出来さえすれば大丈夫です。留学先のインドネシア大学では学部ごとにインターナショナルクラスとレギュラークラスに分かれており、インターナショナルクラスの授業は英語で開講されているものが比較的多いため、興味のある授業が選択できる可能性は高いかもしれません。もちろんレギュラークラスにも英語の授業はありますがインターナショナルと比べると限られます。しかしながら、授業はインターナショナルとレギュラーの両方から履修することができるほか、他学部の授業も履修可能なので、現地学生と比べると非常に広い範囲の授業を受けることができます。1回の授業は150分で1週間に1回です。ただ授業によっては補習のクラスが設けられている場合があります。補習クラスも基本的に週に1回です。日本の大学と比べて、留学先ではクラスは少人数で行われることがほとんどでした。多くても50人ほどです。だいたい10人から20人くらいだった印象です。

予習や復習に関してですが、これらを済ませて授業に臨むことがもちろん望まれます。履修した授業が全くなじみのない場合は、必ず予習復習を行ったほうが良いです。授業中はほとんどの学生が真面目に受けており、質問も飛び交います。また、講師から質問されることもあったり、授業によっては授業後にその日の確認テストが行われる場合もあり、予習復習することは強く望まれます。僕自身、履修した授業の中にはほとんど予備知識がないものもあったため、それらに関しては予習復習はかかさず行っていました。また使用言語が英語のため、その分理解力は数段に落ちます。その結果、授業を理解するために費やす時間も多くなるため、予習復習はどんな授業に関わらずやることになると思います。

課題に関しては、履修する授業によって量が異なります。毎回課題が出される授業もあれば、時々しか出されない授業もあります。欧米と比べると、比較的、課題は少ないと思いますが、日本の大学と比べると、多いというのが僕の印象です。課題の難しさは日本とそれほど変わらないと思います。しっかりと勉強さえしていれば、無理なことはないと思います。

試験に関してですが、授業をちゃんと受けて理解していれば問題ありません。ただテスト時間は基本的に3時間と日本と比べると非常に長く、その分問題量も多いため、時間配分も考えながら解いていく必要があります。試験中の途中退場は許されているので、もし試験が早く終了したのであれば、試験時間中ずっと教室にいる必要はありません。また試験は中間試験と期末試験が必ずあります。中にはそれに加えてレポートも課される場合もあります。試験日程に関しては、基本的に、授業の講師から言及されることはありません。なので学部を設置されている窓口には貼ってある試験日程表を確認する必要があります。学部によっては、それすら提示されない場合があるみたいです。

生活の概要に関するレポート

留学先のインドネシアには乾季と雨季があります。だいたい6月から10月までが乾季、11月から5月が雨季となっています。雨季といっても日本の梅雨とは違い、一日中雨が降るのではなく、その日のどこかの時間帯でスコールになります。このスコールの最中はほとんどの人たちはどこか雨宿りできる場所を見つけ、雨が降りやむまで待ちます。ただ、スコールの後は気温がガクッと低くなりとても過ごしやすい気候になります。乾季の場合はそのようなことはほとんど起きないため、乾季より雨季を好んでいるインドネシア人は多いです。

次にインドネシア滞在中の交通手段について書きたいと思います。僕は普段、学校へ行く際は徒歩と学校内を走っているバスを使って登校するのですが、それ以外の少し離れた場所へ行くときはタクシー、バイクタクシー、そして乗り合いバスを使ってました。タクシーに関しては、日本のタクシーと比べて非常に安く乗ることができます。初乗りが約65円くらいです。しかし、タクシーの会社によってはメーターを使わない、高い料金を請求されるということがあります。僕がBlue birdタクシーとWhite expressタクシーを使用していました。この二つに乗ればまずは安心です。ただ、この会社は首都のジャカルタやその周辺によく見られ、地域によってはこれらの会社に通っていないことがあるので、その際はインドネシア人の友達に聞く必要があると思います。次にバイクタクシーについてですが、これはインドネシアではごく一般的な交通手段の一つです。インドネシアではバイクタクシーのことをオジェック (Ojek) と呼びます。料金は交渉性になっており、外国人の場合だと高く請求されることがよくあります。しかし最近では、法人化したバイクタクシーが現れ、スマートフォンで所在地と行き先を入力するだけで、バイクタクシーが呼ぶことができ、料金も予約完了までに支払い金額が設定されるので、とても僕ら外国人にとってはより使いやすい交通手段となっています。最後に乗り合いバスに関してですが、これも現地人がよく利用する移動手段です。インドネシア語でアンコットといいます。このアンコットは町のどこでも走っていて、乗りたいときは、走っているアンコットを呼び止めます。降りたいときはドライバーに一言いって、料金を払い降ります。バス停といったものはないので降りたいときにいつでも降りることができるので、とても便利な移動手段です。

次に病院についてですが、インドネシアのジャカルタには日系の病院がいくつかあります。僕が知っている中だけで4つです。日系のため、日本の保険会社とも連携しているケースが多く、保険を手続きする手間は全然かかりません。ただ、住んでる場所からジャカルタまで一時間弱かかるので、それはデメリットではありますが、病院に対する安心感というものは全然違うため、日系病院を訪れることをお勧めします